

## 音波探査で見いだされた厚岸湾・厚岸湖（北海道東部）の潮汐三角州の内部構造と埋没カキ礁の分布

### Tidal flood delta and buried oyster reef in Akkeshi -Bay and Lake eastern Hokkaido, revealed by sonic survey

内田 康人<sup>1\*</sup>, 嵯峨山積<sup>1</sup>, 重野聖之<sup>2</sup>, 七山 太<sup>3</sup>, 安藤寿男<sup>4</sup>

UCHIDA, Yasuhito<sup>1\*</sup>, Tsumoru Sagayama<sup>1</sup>, Kiyoyuki Shigeno<sup>2</sup>, Futoshi Nanayama<sup>3</sup>, Hisao Ando<sup>4</sup>

<sup>1</sup>北海道立総合研究機構地質研究所, <sup>2</sup>茨城大学大学院理工学研究科, <sup>3</sup>産業技術総合研究所地質情報研究部門, <sup>4</sup>茨城大学理学部

<sup>1</sup>Geological Survey of Hokkaido, HRO, <sup>2</sup>Graduate School of Science and Engineering, Ibaraki University, <sup>3</sup>Geological Survey of Japan, AIST, <sup>4</sup>Dept. Earth Sci., Coll. Sci., Ibaraki University

北海道東部、根釧海岸域は、数百年間隔で発生すると考えられている巨大地震による急激な隆起と、恒常的な沈降の影響を受けており、このため厚岸湾～厚岸湖沿岸においては海進期を特徴づける活動的なバリアシステムが形成されている（重野ほか、2011 など）。厚岸湾は釧路市と根室市間に位置する湾口幅約9 km、最大水深約30 mの湾で、湾奥部の幅約500 m、水深10m前後の地溝状の形状をなす潮流口により厚岸湖と接続している。厚岸湖は平均水深2m程度の海跡湖で、湖内西部の広い範囲には、海水の流入による上げ潮潮汐三角州が発達し、その上部には干潮時に水面上に露出する現生カキ礁が30年ほど前までは点在していた。

今回我々は、厚岸湾～厚岸湖のバリアシステム解明の一環として、湖内の上げ潮潮汐三角州とカキ礁の分布、および厚岸湾側に形成される下げ潮潮汐三角州の状況を把握する目的で、ソノプローブを用いたシングルチャンネル音波探査を実施した。湖内においては水深が浅いこと、加えて広い範囲でアマモの群生が見られることから、探査測線は主に東西方向に延びる澗筋に沿うように設置した。接続部の厚岸大橋より湾側においては流路を横断する南北方向の測線と、潮流口北側に発達する砂嘴に沿った東西測線を設けた。音波探査の結果、潮流口より厚岸湾側の粗粒堆積物中には、流路方向に傾斜した多数の内部反射面が認められ、潮流による下げ潮潮汐三角州の形成を示している。さらに、砂嘴に沿った反射記録断面中には、数枚の強い反射面が確認され、これらは厚岸湾沿岸域のボーリングコアの柱状対比と良い一致を示すことがわかった。

一方、厚岸湖内の上げ潮潮汐三角州は音波探査記録からは明瞭には確認出来なかったものの、湖口付近に形成されたカキ島周辺の複数の地点で、海底面における強い反射を伴い内部構造が殆どみられないマウンド状の地形が確認された。これらの上面の水深は2～4mの範囲に集中しており、その形状や反射特徴より沈水したカキ礁と考えられる。

キーワード: 潮汐三角州, 埋没カキ礁, 厚岸湾・厚岸湖, 音波探査, 完新世後期, 北海道

Keywords: tidal flood delta, buried oyster reef, Akkeshi Bay and Lake, sonic survey, late Holocene, Hokkaido